

# READY GO !

## YOKOHAMA PERSPEX

～ みなと祭 感想文集 ～



## はじめに



### 第 21 期横浜地区カラーチーム隊 『みなと祭 感想文集』発行にあたって

隊長  
横浜第 103 団 林 健太郎

2003 年 5 月 3 日みなと祭本番。今年も地区内各団より集まった 32 名の精鋭スカウトたち及び隊の誇る熱いスタッフ陣が『横浜地区カラーチーム隊の歴史』に新しい 1 ページを作ってくれました。思えば、3 月 21 日の活動初日、三ツ沢公園青少年野外活動センターに初々しいばかりの第 21 期スカウトと、リーダーとしての経験の浅いスタッフが不安を隠せない様子で集合してから 1 ヶ月半、休むまもなく毎週活動が続けられました。スカウトにおいては第 21 期の仲間やスタッフとの出会い、スタッフに怒鳴られながら頑張ったドラム・フラッグ訓練、仲間との寝食を共にした生活、スタッフにおいては自分の生活を省みない?までの連日続いたミーティングなど、その一つ一つに多くのドラマがありました。そして出会った仲間やスタッフがその辛く厳しい活動を重ねていくうちに、凛々しさや力強さを増し、仲間との絆を一層深めていきました。この全 8 回に亘る活動は彼ら高校生、大学生年代にとってかけがいのない貴重な出会い、体験の場であったに違いありません。今回発行させていただいたこの『みなと祭 感想文集』は、5 月 4 日のみなと祭本番翌日反省会時に参加スカウト全員、インストラクター及び隊付・上級班長に書いてもらったものです。この文集をご覧頂くと、1 ヶ月半に及ぶ活動が彼らにどんな心境の変化をもたらした影響を与えたのか、また 1 つの目標・目的を成し遂げたという『達成感と自信』に満ち溢れた彼らの成長が見て取れ、きっと普段とは違った姿を感じていただけるだろうと確信しております。どうぞ一読いただき、この活動での彼らの成長と成果を読み取っていただければ幸いです。

カラーチーム隊での活動はみなと祭をもってしばらくの間お休みとなりますが、次はこの体験を原隊で発揮する番です。彼らの今後の活躍を願って止みません。

最後に第 21 期横浜地区カラーチーム隊のみなと祭活動運営に際し、ご理解ご支援下さったスカウト保護者の皆様、原隊指導者の方々、そして陰で活動を支えてくださった奉仕の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

2003 年 5 月 7 日

## ．スカウト 感想文



### 反省・感想

モー娘。班  
横浜第 95 団 豊福 崇裕

今回のみなと祭を終えて、まず思う事はスカウトとして出場する最後のみなと祭を満足できる形で締めくくるコトができてよかったというコトである。昨年のみなと祭、第 13 回日本ジャンボリーと含めて最高のできだった。しかし今思えば多くのセッションの中で自分の持てる力をすべて発揮できたかは自信がない。もう現役でみなと祭に携わるコトはできないがこれからも何らかの形でカラーチームと良い関係で行きたいと思う。

また、今年は班長という形でカラーチームに参加した訳だが今思えば嫌な先輩、嫌な後輩だった気がする。最後というコトで「頑張らなきゃ」みたいな気分だった。しかしかなり自己満足ではあるが達成感があり、「やっぱりカラーっていいな」で気持ちになった。

この二ヶ月間での体験したコト、思ったコト、怒ったコト、嬉しかったコトは決して無駄ではないと思う。これはボーイスカウトとしてだけでなくこれからの僕を形成するものとして重要だと思う。

### 第 21 期カラーチームの感想

モー娘。班  
横浜第 95 団 菅 和成

僕は今回のカラーチームは 2 年目でした。去年は自分のことだけで精いっぱいでしたが、今年は 2 回目ということで、去年仲良くなった友達と会えてとても懐かしくて、楽しかったです。

2 年目とはいっても、生活では一年目の面倒を見たり、演技でも新しい技が増えたり、ポジションが変わったりしてまだまだ学ぶ事がたくさんあって大変でした。前は前から 2 番目だったけど、今回は一番後ろで、前の人たちの間違いや失敗などをちゃんと注意してあげなくてはいけなくて、苦労しました。

本番を終わってかなり疲れたけど、達成感去年より増えました。来年も一応来ようと考えているので、この調子でいって来年はもっと十分満足のできる達成感を得たいと思います。みなと祭お疲れ様でした。



## 二年目のカラー

モー娘。班  
横浜第 103 団 吉住 崇

今回のカラーは二年目という事で入隊しました。昨年の一年目はドラムでみなと祭の練習・参加して、フラッグとしてみなと祭に参加するのは初めてでした。ある程度のフラッグの基本は知っていたので一から始めるというわけではなかったのですが普段の練習はかなり厳しくて、つらかったです。

本番のみなと祭では自分では演技の基本に注意して先輩方に言われた事を思い出して演技をしました。

最初から最後まで集中して、ドラムのとくとは違った感動を得ることができました。やはりつらかったが、その成果を出すことができたと思います。カラーの活動は自分にとって大事な思い出になりました。

## カラーチーム隊に入って

モー娘。班  
横浜第 58 団 瀬戸 若菜

三月の下旬、私は 21 期としてカラーチームに入隊した。以前から、カラーチームの活動を見ていたので、期待していた。不安な気持ちは、はっきり言ってなかったし、楽しみという気持ちが大半を占めていた。

練習は辛いし、大変だけどそれ以上に楽しくて、新しいことを教わるごとにカラーが好きになりました。

すぐ小机城址の本番があったけど、私はやる



べきことはやったつもりだったので、緊張はしなかったし、楽しめた。

合宿が続き、細い所まできれいにできるようになると、みなと祭の本番がやってきた。やっとなんとか、もうと言いか。そんな気持ちでチクサクコールをして、実感が湧いた。

本番が終わると、本当に短かったと思う期間が、良い経験をしたという充実感でいっぱい、これが「またやろう」と思える瞬間だと思いました。

## みなと祭に参加して

モー娘。班  
横浜第 125 団 南 裕樹

自分は初めてカラーチーム隊に参加して初めてのみなと祭だった。最初とてもきんちょうして、前の日あまりねれなかったです。次の日の本番の日、僕はとても楽しみだった。そして、集合して、山下公園に行って練習したときは演技は覚えていたがたまにしばいしてしまった。そして本番、みんなでちくさくコールでそのときからとてもきんちょうしました。そして歩きだした。お客さんたちが見ていた演技が始まった。やったらみんなが拍手をくれた。うれしくなった。そして、歩いていくと、カメラがたくさんさってとてももんちょうした。通りすぎて行ってA o iをやった。そしたら、サイクロイドで回って戻るとき、僕はころんでしまった。それからは、しっかりやっこころんだときの、ばんかいしようとおもったけれどももう終わりだった。僕はとても満足できなかった。来年もやるんだったら、今度のみなと祭は満足で

きるようにやりたいです。

## 第 21 期カラーチーム隊に参加して

モー娘。班  
横浜第 125 団 村山 洋平

最初は、あまりカラーに参加したくなかった。何回か見た事はあったけど、なぜが行きたくなかった。しゅしゅカラーに行ったけど、最初はみんなしゃべらなかったので活気がなかった。自分の班はモー娘。だんだん慣れて来て会話も芽生えた。GBTや13NJの時に一緒だったスカウトもいたし少しずつ楽しくなって行った。自分はドラムBD3(2)。一曲目の優希はドラムをした事が無かったので、連係部分が苦労した。あおいは、曲が難しかったけど、たくさん練習して、暗譜もできた。中々、他のドラムやフラッグと合わなかったが、インストや副長、そしてみんなのお陰で曲が初めて「音楽」に成った。その曲は今まで以上に美しく、活気があった。みなと祭では、細かい所を間違えたが、自分として<sup>だいぶ</sup>大分満足でした。カラーの楽しさが分かった気がした。みな様、本当にお世話になりました。

## 現役最後のカラーチーム

パール班  
横浜第 95 団 山田 知明

僕はカラーチームに入って三年目です。とい



うことは今年で現役最後です。今回のカラーチームの活動には、大学受験を控えているので、あまり出れませんでした。そして、本番までのあいだにいろいろな事がありました。やっぱり人の上に立つということはかんたんなことではありませんでした。すごく今回のカラーチームにきて集団生活を勉強できてすごくよかったですと思います。来年もまた来たいです。

## カラーチームの思い出

パール班  
横浜第 19 団 高野 雅志

自分は今年、二年生のスカウトとして参加しました。昨年は「小机城址まつり」や、「みなと祭」の他に、「13NJ」というとても大きな行事に参加でき、非常に貴重で、とても楽しい活動を体験し、自分の今までの中でこの上ない素晴らしい思い出をつくる事ができました。そして今年は「13NJ」にかわる大行事はないものの、「小机城址まつり」や、「みなと祭」の中で、昨年と同等かそれ以上の楽しみや、新しい感動を体感する事ができました。また、「人生」という「人の生きる過程」の中で、有意義でとても素晴らしい事ができたと思います。

これからも、スカウト活動と共に、「横浜 PERSPEX」の活動にも力を注いで行きたいです。

林隊長などのリーダーの方々、野崎上班を始めとする隊付の方々、本当に有難う御座いました。

## 「カラーチーム」

パール班  
横浜第 79 団 山内 賢輔

### カラーチームイェイ

僕は 21 期カラーチームに入って良かったと思った。20 期もやったが今回は 2 年目という事で去年とは全々ちがった。先ばいという立場で 1 年目の演技を見て指導したり、生活面で 2 年目ということでそっせんして 1 年生にやる事を見せて教えたりで大変だった。今年が一番前のイエローフラッグだったのでコマンダーとの距離など難しいことばっかだった。2 年目委員という仕事もあり、休む時間も少なくすごく疲れた。あんまり練習には出れなくて、遅れる事もあったけど、インストや隊付が一生懸命教えてくれたのでついてこれたと思う。パレードが終わってやっぱ達成感がたまんなかった。これがあるからやめられない。来年もがんばろう。

### カラーチームワーク

パール班  
横浜第 79 団 中井 佑亮

カラーチームの演技は何においてもチームワークの必要なものばかりだ。僕はドラムのシンバルで、遅く入ったものの、割とすぐ自分だけではできるようになった。しかし、合奏となると全く揃わず、とても苦戦した。が、リハーサルの日、全員が真剣になった時、全員の音が合わさった。と程同時にフラッグの演技ともそろい、自分でも納得できるものを完成させることができた。



今回の活動で培ったチームワークは今後もいろいろな場面で活かせると思う。得に学校は集団の活動なので、部活動や文化祭、体育祭などの行事にはとても必要な力だと思う。

今まで毎週の練習を始めてから、生活スタイルが崩れて大変な事も多くあったが、絶対にカラーチームに入って損はしなかったと思う。

### カラーチームの感想

パール班  
横浜第 79 団 田中 秀和

ぼくは、カラーチームに途中から入りました。けれど、最初から入っていた同い年の子のようにうまくできなくて、自分がみなと祭までに演技ができるようになるかとても不安でした。最初のうちは、個人練習ばかりで早くみんなと合流したいなと思っていました。でも、みんなの中に入ってみるとみんなとてもうまくて、すぐに自信をなくしました。しかし回数を重ねるうちに、それなりにできるようになってきました。そうなってくると、キツかった練習がだんだん楽しくなってきました。そうして何回も合宿に行っていると、本番のみなと祭がもうすぐだと、気がつきました。

なので、本番に向けて、ますます力を入れて練習しました。でも、どんなに一生懸命やっても、完璧にできる自信がつかせませんでした。けれどみんなとチクサクコールとかをやって勇気ができました。みんなと祭りに出れて本当に良かったです。

## 初めてのカラーチーム

パール班  
横浜第 103 団 小倉 守彦

僕がカラーチームに入ったきっかけは、カブ隊の旗手の一人を務めた時、当時のベンチャーの先輩達がかっこよく見えたからです。

カラーに入ってから初めのうちは、基礎練習が殆どで、自分では結構きついと思っていたのですが、本当にきついのは演技に入ってからで、動作の順番を思い出しつつ、基本姿勢をしっかりとしなければいけないので、忘れっぽい僕は何度も先輩に注意されました。

そんな僕が僕が先輩達を以前そう思ったように「かっこいい」と思えるような演技をできたかどうかはわかりませんが、初めてカラーに入った時に比べて多少変化があったように思えます。来年度も参加して、今度は自信がもてるようにがんばりたいと思います。

## 初めてのカラーチーム

パール班  
横浜第 125 団 山下 周吾

自分は、今回初めてカラーチームを体験した。カラーチームに入った理由は、一二五団の隊長が無理矢理すすめてきたからだ。隊長曰く、「VS 隊の一年目は、私の方針としては、必ずカラーチームをやってもらいます。そのわけは、君達には多くの友達をつくってもらいたいからです。」と。正直言って、自分はカラーに入る気はさらさら無かったのだがまあ、このようなことがあってカラーに入った。



カラーに入ってから一枚目にきたプリントに書いてあったことは、...一万五千元と...。自分は思った。「は！？無理矢理入れられて一万五千元？分け分かんねえ〜。」そしてその後もきつい練習がいっぱいあった。しかし、皆の演技が一つになっていくにつれ、楽しいと思えるようになってきた。本番も上手にできて、いい演技ができたと思う。これは、お金では買えない感動があった。

## 班長として

天津飯班  
横浜第 8 団 布瀬谷志拓

二度目の班長として、先輩方からは大変期待されていると聞いて自分に大きなプレッシャーがかかりました、それはカラーチーム隊第二十一期の第一回活動のときでした。昨年は二年生で班長をして、少しだけ班長の立場が分かっていたつもりでした。しかし、本来の三年生での班長というのはそんなに簡単なものではありませんでした。生活面での統率、班長会議、記念品制作など積極的にこなすのが自分の理想の班長像でしたが、これほどまでに難しいものとは思っていませんでした。

今さら反省して、「ああすれば良かった」と言っても自分はもう班長という役職を二度とできないというのは分かりきっている事実で、今自分に出来る事と言えば、来年度班長になるスカウトの指導しかないと考えています。今期の班長として仕事を全うできたかは心の整理が出来ていないのでまだ言えないが、今までより有意義なカラーチームライフだった事は確



実です。

### 感想

天津飯班  
横浜第 79 団 谷口 勇

え～これで2回目のみなと祭演技だったんですけど自分的に良くでき成功でした。今年はあまり練習これなくこんなんで本番できんのかよって心配だったけど、演技が終わった後のみんなの顔が良かったとても。ぶっちゃけパレード中お腹痛かったです。たぶん来年もカラーをやると思うんで、来年のみなと祭は今年よりも昨年よりも最高のものにしたいです。あとはまた来年書きます。

### 国際仮装行列を終えて

天津飯班  
横浜第 79 団 高橋 幸希

思い返せば最初にカラーチーム隊の募集を受けなかったのは二月ごろだった。でも当初受験で忙しかった自分はそのさそいを断っていた。

そしてやっと受験が終わりホッとした気持ちで高校で何をやるうかとか何部に入ろうとか考えていた。ちょうどその時、原隊の活動があって再度先輩から勧誘をうけた。先輩はとても熱心に説明してくれてその末で自分も入った。

そしてみなと祭が終わった。今まで厳しい訓練をして、皆で完成させたみなと祭が終わった。

終わった時の公園でやったセレモニーの気持ちは皆同じだったと思う。あの充実感は普段の生活では決して味わえないものだった。このメンバーでこの時を共にすごした時はもうない。

でも自分の<sup>ソウル</sup>魂の中には今も生きている。

### 横浜地区カラーチーム隊に入って

天津飯班  
横浜 89 団 吉田 恭子

まだ春休みで桜が咲き始めた頃、私はこの横浜地区カラーチーム隊に入隊しました。

私がまだ小さい頃、兄が十四期生として参加していて、その頃からカラーチームというものに興味を持ち始めて、去年のジャンボリーでの演技を見て私も入ってみたいと思いました。そして今年の三月、第二十一期生としてカラーチーム隊に入隊しました。

今年の一年生(私も含む)は、ほとんどジャンボリーの時のメンバーだったのですぐ慣れました。インストラクターの坂爪さんや、近藤さんはきびしかったけどやさしく指導してくれて楽しかったです。

小机城址まつり、みなと祭はすごく緊張したけれど、見てくれるお客さんから拍手をもらった時とても気持ちがよかったです。

つらい事もあったけど、とても楽しかった。



## みなと祭を終えて

天津飯班  
横浜第 89 団 平元 岳

今回、初回の集まりでは正直やる気半分、不安も半分でした。原隊でカラー経験者の先輩が「カラーはやる気がないと続かないぞ」って初回の前に十回くらい言われたからです。

でも、初回を終えて二回目の集会の前日は「明日は何があるんだろう」と期待でいっぱいでした。

さらに、一、二回合宿をして、ついに小机城址まつりの日がきました。今までやってきた分を小机では出しきれなくて、かなりくやしかったです。

そして、さらに二、三回合宿を終えて、ついにみなと祭の日がやってきました。本番はなぜか妙に落ち着いた気分で出来て、かなり上手く出来たと自分では思いました。

また、来年は部活で急がしそうなので後輩を何人が強制で連れてこようと思います。

## 感想文

天津飯班  
横浜第 95 団 村田 真之助

今年カラーチームに入ろうと思ったりゆうはまいろいろ人進められたりして、まあ自分でもやってみうかなーと思ったかです。最初の時は基そばっかだったけど、ドラム、フラッグに分れて、練習していくうちに、日々新にしんかしていく自分がわかりました。練習をかなり



こなしていたび何度がミスることがけっこう多かったけど、本番でいいもん見せると気持ちでがんばった。本番で何回かミスったけど、終わったあとのたっせいかんはなんか、心地よかったから、来年もやってみようと思うたぶん、来年もやってみようと思う。

## カラーチーム

天津飯班  
横浜第 120 団 黒崎 翔

三月に集まってから、毎週の休みに集って合宿をした、合宿のだいたいのスケジュールをしめていたのがセッションだった。

セッションではまず第一回目で集った時の練習は足の上げ下げばかりだったそのあとはレフトフェイスレフト、ライトフェイスライトアバウトフェイスアバウトなどの練習をしたがまず苦戦したのがレフトフェイスとライトフェイスのききわけだった、だけど回をかさねていくうちにインストたちもとても聞きやすい声にしてくれた。

しばらくするとフラッグとドラムを分けるための質問用紙が配られた、自分はフラッグになってそのままセッションをやった、えんぎのれんしゅうをして小机に桃んだ。

小机も終わって数々のセッションのあとみなと祭に出場歩くのが少しづらかったけど終わったときの感動はものすごかった。

## 班長クラス

石丸電気班  
横浜第 120 団 久保田 雄大

あちきは今回、班長としてこのカラーチーム参加しました。実は僕は去年一年間語学留学して(自慢ではない)したので、2年目?の3年目として自分なりに班長という役目クリアしたと思います。最初の時はあまり自覚がなかったらだらしてました。そして三回、四回と合宿が続き、緊張感がなくなってきたので班長クラスは班長会議を開くことにしたのです。出てくるは出てくるは問題の山。どうしたら問題が解決出来るのかどうか5時間6時間悩みました。その結果生活面では問題が改善されたような気がしました。それが良かったのかまとまってきたのはあちきたちは一番うれしく感じました。22期は上班か隊付きをやるつもりなのでみんなついてきてネッ♡

P.S. 英語わからないやつあちきにじゃんじゃん聞いてくれ。

## 約二ヶ月を振り返って!

石丸電気班  
横浜第 79 団 石丸 孝博

カラーチームに入ったきっかけは、僕がボーイスカウトの時にカッコいいなと思って入りました。

今、僕は二年目になって、一年目よりもする事が、沢山あって、最初はできるか、不安でした。けれども、がんばってできて、うれしかったです。一年目に、指示を出したり、二年目だ



けの仕事をして、したりしてとても忙しかったけど、とても勉強になりよかったです。

みなと祭に行って去年は、ちこくをしたけれど、今年はちこくしなくてよかった。みなと祭は、演技を、間違えたりしたけれど、たっせい感があってうれしかったです。

この、約二ヶ月は、いろんな事があってとても勉強になることや、ためになることがあってよかったと思いました。横浜 30 周年記念行事も、よろしくお願いします。

## カラーチームの感想

石丸電気班  
横浜第 125 団 渡辺 直人

とりあえずつかれた。そして、楽しかった。カラーの2年目って一番らくそうーだと思ってたけど以外に大変だった。ドラムに人いなさすぎだし、3年いないし、2年俺だけだし、ありえねー。でもドラムに2人女の子が入ったのはすごいと思う。とりあえず面白かったです。ちなみにめいば見たら俺が次長だった。今はじめて知った。

## カラーチーム

石丸電気班  
横浜第 20 団 井坂 勇介

僕はカラーチーム隊に入って、最初はリーダーに強制的に入れられたからあまり乗り気じゃなかったけど、最初に集まったときも、知ら

ない人ばかりだったので友達できるのかかなり不安だったけど、みんなと話していくうちに先輩とも仲良くなれました。

そして、みんなとキツイ練習をしてみなと祭という舞台上で演技する事ができました。自分はなっとくのできではなかったけどみんなと演技できて本当に良かったです。今は本当に来年やるか迷っています。まあとりあえず 21 期にカラーができて本当に最高でした。

## カラーチームを終わって

石丸電気班  
横浜第 79 団 岸 拓磨

今回 1 年生としてみんなより少し遅れて入隊したけど最初に思ったことは同じ年代でも少し入隊がおくれただけでこんなにも差がひろくのかと思いました。それでも自分はみんなに追いつこうとがんばり練習をしました。けど小机城址にはまにあわなかったけ副長にでると言われたときはうれしかったです。これをきに練習をがんばり最終目標のみなと祭も自分ではくいいはないとおもっています。

## カラーチーム

石丸電気班  
横浜第 95 団 郷司 慎平

カラーチームは自団の先輩たちが入っていて自分もすごくあこがれていた。そんなカラーチームに自分も入れるようになってとても嬉しかった。しかし、自分があんな演技が出来る



か?とか不安も沢山あった。

入隊して、そんな不安はなくなった。なぜなら、自分みたいな一年目の人が沢山いたからだ。練習を重ねてって気づいたら小机城址まつり。そして、みなと祭。前日に演技を振り返っていたら先輩から電話が来て勇気と自信をもらったような気がした。

本番で、自分はいくいの残らないように自分のすべてを出した。失敗もしたししっかりかんかくがとれてなかったりもしたけど、自分では満足する事ができた。

こんな事をもう一度、味わいたいので来年のカラーチームにも参加します。

## 21 期カラーを終えて

チャオズ  
餃子班  
横浜第 79 団 嶋村 一将

昨年の NJ から参加した俺、みなと祭は今回、最初で最後ということになる。

まず合宿がとまどった。わからん事が多くて同じ班長陣に質問しながら班員に指示を出すのは、はがゆかった。班員からは三年・班長として見られているからよけいにプレッシャーがかかる、その事で初日とか少し悩んだ。じきに生活にも慣れてきて班員のキャラもわかってきた。

合宿の終盤遅刻、欠席が多かったが自主練のかいもあって何とか本番をむかえる。

本番、あそこまで体力が削られるとは思もよらなかった、でも観衆の声やリアクションが聞こえるとエクスタシーを感じられた。

全体的に他の班長に引っ張られる場面も多かったが盛り上がりとしては自分的によかった。

## 先輩と呼ばれたと時

チャオズ  
餃子班

横浜第 19 団 小柳出 匠

昨年は実を言うと楽だった。やること全てを先輩と同じ様にすればよかったから。でも、今年は少々プレッシャーがあった。自分が先輩になるからだ。優しくて親切な先輩を目指したつもりだったが、はたしてどうだっただろうか。ちょっと反省してみようと思う。

学校の部活動で前半の活動になかなか出れなかったせいか、最初は話しかけてもあまり「会話」として成り立ってなかったと思う。でも、何とか後半は楽しく会話できたと思う。でも、練習中は結構細かい所まで言いすぎたと自分では思う。要するに「おせっかい」すぎたと思う。でも、自分が教えられる立場にいるのが実はうれしかった。普段の生活でも、三年や上班・インストの方々と一年の間でなんとかパイプ役が出来たと思うが、まだちょっと不なれでおたおたしてしまったので、来年はもっとしっかりハッキリ指示を出そうと思う。

なんとか今年の活動は先輩として活動できたが来年はもっとしっかりとした最上級スカウトらしい態度で新しく入ってくるスカウト、二年目のスカウトを引っぱっていきたいです。林隊長やリーダーの皆様、野崎上班や隊付・インストの方々、今年もサポートなど大変ありが



とうございました。来年もその先も来ようとおもっているのでもよろしくお願いいたします。

## 「本番を終えて」

チャオズ  
餃子班

横浜第 95 団 伊藤 彰英

自分は、去年の 20 期からカラーチームを始めました。去年は、ドラムを選んでシンバルをやって今年は、フラッグもやってみたいと思いフラッグを選びました。青列の 4 番になりみなと祭に望み、満足が出来る様な演技が出来たと思います。

一年目のドラムと二年目のフラッグを比べて自分的にはフラッグが好きです。一年目のときは、本番とても疲れたけど、二年目の時は、終着地点についたとき、演技したりないとおもいました。やっぱりカラーチームはとても、楽しいです。

でも、今年でもう出れないと思うとちょっと寂しいです。なので、もし出来たら、隊付きの年代やインストの年代も出たいと思います。

カラーチームでとても良い体験が出来ました。

## カラーチームに入って

チャオズ  
餃子班

横浜第 73 団 丸山 春菜

三月の終わりから、毎週土日を利用して合宿が

ありました。カラー隊には前から憧れていたの  
で一員になれて嬉しかったです。それと同時に  
不安もたくさんありました。

セッションで、色々な号令を習った時は、す  
ごく嬉しくて家でも遊ぶ時でも練習しました。

セッションはすごく充実していたけど、班会  
議や他の時間は全然話さないし、ポケッとして  
いて皆にとっても迷惑かけてしまいました。

ドラムのスネアになって沢山練習したけど  
リムショットが当たらず、とても悩みました。

小机城址が無事終了、みなと祭に向けてまた  
頑張りました。最後の方の練習では、皆が一つ  
になってきたのがわかって嬉しかったです。特  
にチクサクコールは感動しました。

初めての、みなと祭はまだまだ足りない所が  
ありました。だから、来年は完璧っていうのを  
目指します。

## 第 21 期カラーチーム隊に参加して

チャオズ  
餃子班

横浜第 120 団 梶原 寛史

僕は、初めカラーチームなんてやってもやら  
なくてもいいと思っていました。しかし入って  
みると、日本ジャンボリーの時の友達もいて、  
楽しく活動できた。練習はとても厳しくて途中  
やめたくもなったけど、最後まで続けることが

出来てよかった。がんばってやったみなと祭は  
緊張したけどとてもよいものできたと思う。  
来年は部活があるので参加できるかわからな  
いけど今回はとても楽しかったです。

お世話になった先輩の方々ありがとうございました。

## 僕のカラーチームライフ

チャオズ  
餃子班

横浜第 125 団 前原 博幸

僕はぶちゃけ特にカラーチームに入りたか  
ったわけではないです。ヒマだったし、少しは  
興味もあったし、まあうちの団はほとんど強  
制的にやらされるので、まわりもまきこんで  
とりあえずやちやいました。実際一回目の合宿  
はだるくて後悔しまくりました。でもドラム  
はなんか楽しくて、セッション中だけではや  
る気マンマンでした。まあやってくうちに少  
しずつ楽しくなってきて、やる気も上昇しま  
くりました。小机城址の時はマジきつかった  
し間違えまくって泣きそうだったけど、練習  
していくうちに BD の重さになれました。本番  
はミスもけっこうあったけど、学校の女友達  
も見に来てくれてたんでマジがんばりました。  
つかれたけど本当によかったです。パースペ  
クスバンザイ！



## スタッフ 感想文



### 次回に向けて

インストラクター  
横浜第 10 団 坂爪 亮一

来年 4 月より、老人介護の分野で働く私にとって、この度の「みなと祭」は通算 13 回目の集大成でした。

そのため、スカウトや後輩スタッフに対し効率のよい教え方を伝えることが仕事でした。

私なりに、物を大切に、物に対して感謝の心を持つ、仲間との連携については伝えることが出来たと思っています。しかし、後輩達がスカウトに教えるサイの内容や方法については、まだまだという気がしています。

このことから、今年でパースペックスのスタッフは最後と思っていましたが、伝えきれない部分が残っているので、この先土日のない職へ就くが、できる限り続けていこうと思いました。

来年もまた、同じフィールドに立つぞ！

### 感想文

インストラクター  
横浜第 20 団 田原 雅浩

2 月の自分は大学が春休みで毎日、暇な生活を送っていた。3 月になりカラチームが始まるとそれまでの生活が嘘のような忙しい日々が始まった。でも、「明日も会議かぁー」と言っている自分の顔は笑っていて、とても充実し

ていた。

ゼロから演技を教えた 1 年生もどんどん演技ができるようになって来て、本番には自信をもって演技をしている様子が見えた。その姿に自分の仕事を忘れて見入ってしまうほどだった。

合宿を重ねるにつれて仲良くなっていくスカウト達を見ていると今年もカラーに来て良かったと思う。

みなと祭で終わりではなく、これからもカラチームで知り合った友達同士で遊んだりスカウト活動をしたりして行ってほしい。そしてまた皆に会えることを楽しみにしています。「みんなまたなァ！」

### 21 期カラチームについて

インストラクター  
横浜第 69 団 生嶋 則明

3 月中頃から 5 月初めまで、みなと祭のインストとして多くのことを体験しました。今年はリーダー 2 年目。上班・隊付の指導及びフラッグインストとしての仕事、事務局としての仕事等盛り沢山の内容でした。一番やりがいがあったのはインストの仕事でした。演技をいかに上手く説明するかの工夫が難しく、スカウトにとってみればよくわからないことが多かったと思います。しかし、徐々に演技が完成していくにつれて自分も共に成長しているという実感がありました。事務局の仕事は裏の仕事でした

が、この仕事がなかったらカラーを運営していくのは無理だと思いました。

よき先輩後輩、仲間と共にみなと祭を成功させる目的で頑張ってきました。100%ではなかったけど、“キッチリ”できたと思います。これからも頑張ります。

### 自分にとってのカラーとは

インストラクター  
横浜第 95 団 近藤 知晃

今回カラー 5 年目としてインストをやらせてもらいました。今年は、ドラム演技を教えることになりインスト 1 年目ということで少なからず不安があり大丈夫かな？しっかり教えられるかな？など思っていました。先輩のインストが居てくれたおかげでなんとか教えることができました。ただし 3 月中は出る事が出来ないと言われた時は、不安でしかたまりませんでした。とにかく曲を覚えてがむしゃらにやっていました。4 月になり先輩が出て来れるようになり本格的なセッションをしていく最中、音のボリュームが足りないために、私が入ることになりました。それは今までと少し違って、今までは一緒に教わった仲間とやって来ましたが、今年は教え子と曲を作るというものでした。私は、これからも教えて行きたいと思える感動を味わう事ができ今となっては、それが確信へと変わってます。



### 第 21 期カラーチームみなと祭を終えて

インストラクター  
横浜第 103 団 五十嵐 竜太

自分は、21 期カラーチームの指導者としてインストラクターの仕事をしました。

主に演技の指導者としてどうすればスカウトに満足できるか？お客さんにすばらしいものをみせられるか？を日々考え、他のインストのみなどと考えてました。最初に教えたときはとまどって自分が教えるということにいわゆる感を感じたけどあとになっていくとそれがなくなり楽しく教えたれた気がします。

スカウトのモチベーションも本番に近づくにしがってあがって行って本番ではいつも以上に力をはっきしてかなり熱かったと思う。

カラーチームで教わったことを原隊で活かせるようにこれからもスカウティングを続けていきたいと思います。そしてここでであった仲間をこれからも大切にしていきたいと思います。

### 21 期カラーチーム隊について

インストラクター  
横浜第 103 団 坂本 雄一

春、進路よりも先に 21 期カラーチーム隊のインストをやらせて頂くことになった。その頃は、ただ漠然としか考えていなかったのだが、進路も無事(!?)に決まった途端に、インストとして、役割をまっとうできるかと不安が一気に募った。

そして、あっという間に初担当のセッションがやってきてしまった。詰めが甘く、遠藤さん

の助けがなければ、ムダに終わっていたと思う。この時、遠藤さんの凄さを改めて実感した。

そして、なんだかんだで、リハ・本番を迎える事ができた。本番のスカウトの演技が見れなかったのが残念だったが、さぞ素晴らしい演技をしてくれたと思う。

今期インストをやってみて、自分の気持ちを伝える難しさ、そして助け合いの大切さを学べて、本当に良かったと思う。

## 今までと違うカラー

隊付  
横浜第 79 団 河田 智宏

今期初めてリーダー側として参加で、不安な面がいっぱいあった。初めは勝手がわからず、すべき事が何もできていなかった。それでもなんとか隊長・副長に支えられながらやっていくことができた。参加前は、5人もいるのだからなんとかなると思っていたが、それが失敗の原因にもなっていた。合宿の回を重ねる度に自分では少しずつ変わっていく気がした。隊付内でも意見の相違でもめることも多かった。でもそれは、皆が良くしていこうと思っているからこそだった。この1ヶ月ちょっとがむしゃらに走ってきた。色んなことがあったけど、それもいい思い出です。でも淋しいのはもう隊付ができないこと。もう少しやっていたかった。



## 初てのカラー

隊付  
横浜第 79 団 佐久間 勇樹

今年のカラーチーム活動は、すべてにおいて初めての経験ばかりであり、まったく新しいものに感じました。指導者とスカウトの立場・視点がこんなにも違うのかと実感した年でもありました。そんな僕らを支えてくれたインスト・リーダー・そして仲間たちに変感謝しています。

また弟のようなスカウト達には大きな感動を与えられ、上に立つ感覚が去年とは違うことにおどろきました。

来年は、僕らと同じことを味わうスカウトが隊付になります。僕らも初めてのインストになります。初心を忘れずに頑張りたいです。

ありがとうございました。

## 色の道に戻って思うこと

隊付  
横浜第 103 団 柴田 裕樹

昨年は会えなくて残念でしたが、2年ぶりに平沼さんと再会できてうれしい限りであります。顔色がよくないかなとも思いましたが、雨にも負けず、風にも負けず構え続ける、威風堂堂たる彼に元気をもらい、覇気が湧きました。

ところで、胴上げするなら丁寧に扱ってよ。強打した腰がまだ痛いよ(5月6日現在)。何の恨みか知らないけど、とりあえず炊き込みご飯を2度も失敗したのは御免。ま、朝食作りも含めて苦労した分、みんなとパレードできてうれ



しかった。ゴールが見えた時は右腕の激痛からの解放を喜んだけど、これが最後のパレードだと思って思ったら、初めて平沼さんに会った時のことか思い出して、……（涙？）。この2ヶ月を一生懸命に走り続けたみんなも感動のゴールだったと思います。みんな、ありがとう！また三ツ沢で会おう。

### 俺とカラー。カラーと俺。

隊付  
横浜第 125 団 渡辺 友則

今期はスカウト引退後、リーダーとしてのカラーチーム初参加ということで、もうウキウキワクワクだった。隊付としてスカウトと接し、いろいろな仕事をこなし、そしてなんと演技に参加もした。21期の俺の流れはこんな感じだけど、内容は破嵐万丈なものだった……。まず思ったことは上班・隊付ってのは果てしなく忙しい。これはスカウトの時には分からないことですね。まさに裏だよ。スカウトをまとめるのがこんなに大変だなんて！！これはやってみて初めて痛感しました。でもね、大変なだけあって実はとっても楽しかったんだよね。スカウトが楽しそうにしているのを見たときゃもうホントたまらなかったね！！ちょっと頼りなかったけど、みんなついてきてくれてありがとう！！そして最高の演技・演奏・笑顔をありが

とう！！一度しかないこの21期をみんなと過ごせて良かった。また会おうね♡

### 上班になって

上班  
横浜第 35 団 野崎 俊一

今回、上班という立場になり苦労も多かったけれど、非常に大きな達成感を得ました。キッカケは21期になり、新しい事を始めようという事で、ドラム隊からの初めての上班になろうと思い、立候補しました。

最初はなんとかなるものと思い、軽い気持ちで始めたのですが、いざ合宿が始まってみると、去年までとは比べものにならないほどの仕事の多さ、スカウトたちから頼りにされるためそのプレッシャーの重さ、ドラム隊からのコマンダーだったため、フラッグの演技が把握できずに、フラッグ隊を上手く導けなかった事等、苦労は絶えませんでした。

しかし、苦労した分スカウト達とはいい関係を築くこともできたし、みなと祭も多少トラブルはあったけれど成功することができ、今では満足感でいっぱいです。

来年、絶対に戻ってこれるよう頑張ります。



## 21 期みなと祭を終えて・・・

副 長  
横浜第 10 団 遠藤 洋平

今年もあつという間の 2 ヶ月間、みなさんお疲れ様でした。私も今年第 21 期で、通算 8 年間カラーチームに携わってきました。

毎年春になると、活動場所である三ツ沢公園に足が向き、今でもドラムのリズムが耳に入るとそのリズムに足を合わさずにはいられなくなり、歩く時はつま先が上がっているといった自分でもわかるくらいのカラーチームバカだと実感していました、そんな風に感じていたのですが、今年の活動中、たくさんの父母や各団のベンチャー隊長の方々に見学に来て頂き、そこである父母からこんな話を聞きました。家で手頃な長さの棒を見つけると、スティック代わりに何かを叩いたり、ポール代わりに上げたり下ろしたり、回したりと、それで何かしら壊され事があると、笑いながら話してくださいました。もちろん、物を壊してしまうことは、いけない事ですが、家に帰ってもそんな事をしてしまうスカウトは、私と同じで本当にカラーチームバカなんだと実感しました。

2 ヶ月という短い間ではありますが、カラーチームで学ぶものは、ドラム・フラッグの技術だけでなく、普段では味わえない感動、かけがえの無い友達など、いろいろな事を学ぶことが出来たと思います。それをこれからのスカウト活動、普段の生活などでの糧として行って欲しいと思います。 アテン・ハット！！！！

### 「12 年目のみなと祭を終えて」

副 長  
横浜第 69 団 今野 雅英

第 21 期横浜地区カラーチーム隊最初の活動である「みなと祭」が終わりました。

最後にスカウト達の顔付きが、不安と期待が入り交じった第 1 回活動の時とは違い、ひと皮剥けた頼もしいものになっていました。とても良い顔をしていたことが今年は強く印象に残っています。

今年は、私自身がカラーチームに始めて参加してから、ちょうど 12 年が経ちました。私も彼等と同じ年代であった当時、どんな様子で活動に参加していたかを、ちょっと振り返ってみたいと思います。

当時高校 1 年生であった私は、土曜日になると通学カバンと、合宿用荷物を入れた大きなドラムバッグを持ち（昔は寝袋と食器は必須アイテムでした）さらに昔の制服なのでハットをぶら下げて登校していました。怪しいとんがり帽子を下げた怪しいバッグ、それを自信満々に持っている怪しい生徒。当然校門で荷物検査をしている先生に捕まります。体育系の教師が想像通りの口調で尋問してきますが、ボーイスカウトの訓練合宿がある、ということを行いながら生徒の波の中に、毎回フェードアウトしていたと記憶しています。当時は遅刻や欠席・早退をすると、他のスカウトとポジションが変わってしまったりと大変でした。

また、食事調理は毎回当番班があり、当番班は泣く泣くセッションから抜けて、調理から配膳・片付けまでを担当していました。当然その抜けている間もどんどんセッションは進んで行き、他のスカウトから遅れをとってしまいます。

しかも合宿がいまの様に毎回三ツ沢というわけではなく、3 団・35 団・95 団など団ハウスや三ツ沢をを転々としていました。従って、合宿中は風呂に入る事も出来ず、みんなで川の字になって寝ていました。日曜日の解散後みんなを着替えをするわけですが、その時の臭いは気合いの入った浮浪者並みの臭さでした。横浜駅まで歩く途中、あからさまに通行人から「臭い！」と言われた事もありました。

そんな中で、一つの目標に向かって突き進むことで、多くの友達との友情が出来、それがいまでも続いている事を、私はカラーチームを通じて得ることが出来ました。

今期のスカウト達はこの活動を通じて、何を感じ何を学ぶ事が出来たのでしょうか？12 年前に私が得たのと同じような事を感じ、学んでいるのでしょうか？それはスカウトの心だけが、わかっていると思います。

みなと祭の活動が終わり、原隊での活動に戻

って行くわけですが、カラーチーム通じて感じた事を普段の生活や活動の中で、生かしてもらえたらと願っています。そして、秋の30周年記念ラリーでの活動で、皆さんと再会したいと思います。お疲れさまでした。

## カラーチームのともだちを大切に

副 長  
横浜第95団 高橋 道人

この春、私は長い学生生活に終わりを告げ、新社会人として新しいフィールドでの活躍を目指し、スタートを切りました。大きな期待と夢、そして不安。久しぶりにこのような人生の転機を迎え、心新たにすることが多かった2ヶ月間でありました。今年初めて参加した新高校1年生のスカウトもまた、大きな期待と夢、そして不安を抱き、カラーチームを訪れたことでしょう。全てがはじめての世界。そのとき戸惑いを隠せない表情だったスカウト達が、今や自信に満ちた表情に変わり、あの素晴らしい5月3日のみなと祭を迎えることができたのは、とてもよかったことだと思います。

思い起こせば高校1年のとき、私も同じようにカラーチームに参加しました。以来10年目になりますが、その間カラーチームと共にいたひとつの魅力は多くのともだちでした。生まれも育ちも学校も違う同年代のスカウトがひとつのことを目指し、共に生活していく中で、そのともだちから多くのことを学び、そして一緒に楽しみました。今思えば、そのともだちがいたからこそ、カラーチームを楽しみ、のちにローバーにおいても多くの仲間と共に活動ができたのだと思います。カラーチームでのともだちは普通のともだちとはまた違うなにかがあるのです。

春になると三ツ沢へ来るOBも少なくありません。みなと祭の本番前、気付けばOBの輪ができていました。皆と話していると、懐かしさだけではなく、そこへの思い入れがあるのだと感じました。そして、口々にカラーチームでのともだちにまつわる思い出がとめどなく出てきたのです。そのとき、私はカラーチームはス

カウト達という人のつながりでできているのだと改めて思い知らされました。フラッグもドラムも取り去ったときに残るもの、それはともだちという人のつながりなのです。

ですから、私は、カラーチームでの貴重な体験による大きな思い出とともにだちを、財産として、ぜひ大切にしてもらいたいと思います。そしてそのともだちと、これからも楽しいことやつらいことなどをどんどん共有して行って、今後の素晴らしい人生の演出に活かして行ってほしいと思っています。カラーチームがそのきっかけを作ったのであれば、それよりうれしいことはありません。

これから先、今回カラーチームに参加したように、いろいろなところでチャレンジすることが多いことだと思います。ひとつひとつのチャレンジが多くの体験とともにだちをもたらしてくれます。カラーチームでのがんばりを、ぜひいろいろなところで発揮して行ってください。あれだけがんばることができたわけですから、不安に思うことはありません。今度会うときには、ぜひいろいろなチャレンジの話をお聞かせしてもらいたいと思っています。

みなと祭おつかれさま。これからのさらなる飛躍に期待しています。

ともだちになるために 人は出会うんだよ  
どこのどんな人とも きっとわかりあえるさ  
ともだちになるために 人は出会うんだよ  
同じようなやさしさ 求めあっているのさ

今までであったたくさんの  
君と君と君と君と君と君と君と  
これから出会うたくさんの  
君と君と君と君と ともだち

ともだちになるために 人は出会うんだよ  
一人さみしいことが 誰にでもあるから  
ともだちになるために 人は出会うんだよ  
誰かをきずつけても 幸せにはならない

繰り返し

## あとがき

こんなことがあった。1日の活動が終わり、私服へ着替えるスカウト達。みるみる“いまどき”の高校生へと戻っていく。制服姿の彼らとのギャップを感じたのは僕だけだろうか。

カラーチームで過ごした2ヶ月間は、“いまどき”の高校生たちにとってどのように映ったのだろうか。いまやほぼ全てのスカウト達が携帯電話を持ち、髪が茶色、耳にはピアス。ルーズなファッション、17歳が何かと世間を騒がせる時代……。時代の移り変わりにそって、カラーチームのスカウト達の外面は変化してきた。その中で、カラーチームが“PERSPEX”らしくあるために、カラーチームもその時代にあったスタイルへと変化してきた。しかし、多くの先輩スカウト達を感じてきたカラーチームのよさを今のスカウト達もまた、感じてくれているだろうか。そのような危惧を抱かざるを得ない。

彼らの感想文に目を通すと、その答えが見えてくる。我々の期待以上にいろいろと試行錯誤して、この2ヶ月を過ごしてきた彼らは、外面は“いまどき”であっても、内面はまさにスカウトであろう。その成長を誇らしく思う。

この2ヶ月で彼らが手に入れた貴重な経験とひとつのことをやり遂げた友。今後、これらを用いてどのように人生を切り拓いていくか、ますます楽しみである。みんなの将来に弥栄。

本文集中の誤字・脱字は全て、提出された原稿をそのまま反映させたためです。

### 第21期スカウト感想文集

2003年5月7日 第1版発行

2003年5月16日 第2版発行

発行： 横浜地区カラーチーム隊 隊長 林健太郎

編集責任者： 横浜地区カラーチーム隊 副長 高橋道人

編集：

横浜地区カラーチーム隊

インストラクター 生嶋則明・田原雅浩

隊付 渡辺友則・佐久間勇樹



Bowen did his duty, kicking the IM out of the word IMPOSSIBLE  
Any fellow who acts like that is certain to get on.